

令和 7 年 9 月 24 日

ノルウェー出張 報告書

氏名：五味 優輝

所属：名古屋大学宇宙地球環境研究所/大学院工学研究科電気工学専攻

塩川研究室 (修士 2 年)

滞在期間：令和 7 年 9 月 6 日～令和 7 年 9 月 14 日

私は上記の日程でノルウェーを訪れ、Stø 観測点において OMTIs の高感度全天カメラおよび、波長 630.0 nm の O 原子の発光、OH バンドの大気光観測用 ZWO カメラの設置・調整を行った。Stø 観測点(磁気緯度 67.36° N)はノルウェー北部の都市 Tromsø よりも南側のラング島の北部に位置しており、オーロラ帯のオーロラや、高緯度地域の大気光の観測が可能である。

このカメラを Stø 観測点に設置されたドーム内にすべて設置した。1 つのドームに設置したため、電源コードが複雑に伸び、スペースも狭く大変な作業であった。このうち、ZWO カメラの 2 台は翌年に数十 km 離れたアン島の観測点に移設予定である。移設時はおそらく私はいないので、無事に取り外しができることを祈っている。

私は 3 つのカメラのうち、波長 630.0 nm の ZWO カメラを担当した。プログラム通りに起動し、遠隔地から正しく動作していることを確認した。1 日かけて行ったコード接続やネットワーク構成がうまくいっていることに安心した。

ノルウェーの 9 月上旬から中旬の気温は、体感では日本の 11 月ぐらいに相当する。道沿いの植物はわずかに色づき、日本の秋らしい空気を先取りしている。生活は観測所に近い Airbnb の施設で過ごした。部屋は暖かく、虫は少なく、眺めは良く、シャワーの水圧も高く、それでいて清潔な環境で、過ごしやすかった。訪れる際にはぜひ検討を。

最後に、ノルウェー滞在中に肉眼でもはっきりオーロラを見ることができた。研究対象を実際に体験できる貴重な機会であり、設置したカメラで観測することができた。このフィールドワークで培った経験を今後の研究に生かしていきたい。



図 Stø 観測点とドーム内の全天カメラ。視野に移りこまないような高さ調節が困難。